

---

---

## 地球社会の貧困と正義

伊藤恭彦 (名古屋市立大学：現代政治哲学)

### 1. 世界の貧困問題

#### (1) 世界の貧困状況

- ・ 7億 9500万人：飢餓で苦しむ人の数 (9人に1人)
- ・ 310万人：5歳未満で亡くなる子どもの約半数 (310万人) が栄養失調
- ・ 4人に1人：5歳以下の子どもの4人に1人が慢性的栄養不良

(国連世界食糧計画 HP)

#### (2) 世界の格差

- ・ 世界人口の2割が8割の富を所有 (シャンパングラス・パターン)
- ・ 死亡原因 (死亡に関わる社会条件)

**貧困国**：食料不足、危険な性行為、飲料水汚濁、屋内固形燃料、亜鉛不足、鉄不足  
ビタミンA不足

**富裕国**：タバコ、高血圧、アルコール、高コレステロール、太りすぎ、野菜不足  
運動不足

→紛争、犯罪、疾病、暴力、麻薬、子ども兵…の土壌

#### (3) 改善と悪化

- ・ 世界の貧困状況は劇的に改善：中国とインドの経済成長、MDGs と SDGs
- ・ 一部地域は置き去りまたは悪化：**サハラ砂漠以南、新たな紛争地域**

#### (4) 貧困についての誤った理解

- ① 貧困は自然現象か？：避けることのできない悪か？
- ② 人口増加が貧困の原因か

### 2. 貧困者と私たちとの関係

#### (1) 映画から

- ① 「ダーウィンの悪夢」：一匹の魚が結びつける貧困地域と富裕国
- ② 「ブラッド・ダイヤモンド」：紛争地発ゴージャスなプレゼント

#### (2) 日常生活と貧困者

- ① Sweatshop (労働搾取工場)：低賃金＋長時間労働→富裕国向け衣料品

②レアメタル・レアアース争奪戦：ゲーム機器、ハイテク産業と紛争

(3) 地球環境問題と貧困者

・地球環境問題（気候変動）の被害はグローバルな社会的弱者へ e.g. ツバル

### 3. 正義の見方

(1) 正義：「他人に対するものとしての終極的な器量」（アリストテレス）

→人と人との関係の正しさ、不正をただす規範

→恣意的な差別（根拠のない好き勝手な差別）の禁止：人を公平に扱う基準

差別（区別）をする場合には合理的な根拠がある、偶然（悪運）による不幸には対処

(2) 正義の義務

①**積極的義務**：慈善活動＝やれば賞賛されるが、やらなくても非難される

→とても大切な義務、貧困者との関係はこの義務に留まるのか？

②**消極的義務**：加害防止義務＝やらなくては（やめなくては）非難される義務

→積極的義務よりも重い＝正義の義務

\* 地球規模の貧困者との関係は

- ・グローバル経済は地球の人々を結びつけている
- ・その結びつきによって一部の人は豊かに、多くの人は貧しくなっている
- ・貧困原因のいくつかは自己責任とは言えない地球の構造の問題
- ・富裕国は加害構造から利益を得ている

③**グローバルな正義**：地球の不正な関係を矯正する

### 4. 正義の実践

・タックスヘイブン対策：金持ち、大企業の租税回避

・SDGs (Sustainable Development Goals)：持続可能開発目標

・航空券連帯税：国境を越える税制

### 5. 大学で学ぶ意義

---

#### 参考文献

上村雄彦『世界の富を再分配する 30 の方法』（合同出版）

『不平等をめぐる戦争』（集英社新書）

伊藤恭彦『貧困の放置は罪なのか』（人文書院）

『さもない人間』（新潮新書）